AD

HSBC

HSBCが宣言、「サステナブル金融」の時代

Vol.1

150年以上の歴史があり、英国の本部のほか64の国と地域でサービスを提供する世界有数の金融グループ、HSBC。長年、ESGの課題に対して幅広く取り組んできたが、2020年10月に自らの事業運営・サプライチェーンでの「ネット・ゼロ」（二酸化炭素排出量を実質ゼロにする）達成を2030年に、また顧客の排出量削減・低炭素経済への移行支援による2050年までのネット・ゼロ達成を宣言した。

ミレニアル世代が企画した個人向けESGファンド

ESG投資の分野で、20年近くの実績を積み上げてきたHSBC。そのノウハウを生かして20年11月、個人投資家向けに、国内初となるESG要素を取り入れた米国株式のインデックスファンドを設定した。なぜ同社は、このようなファンドを企画したのか。HSBC投信の代表取締役社長、金子正幸氏は次のように語る。

「今ESGには、個人からも企業からも大きな関心が寄せられています。例えば個人が、電気自動車を使ったりオーガニックフードを嗜好したりするなど、ESGに寄せてライフスタイルを見直すのはすばらしいことです。しかしESG投資をすることで、個人が企業や各国政府に対して、より直接的な影響を及ぼすことができます」

長期にわたってESGに熱心な企業を支援できるという観点からも、高い成長を続ける米国株式と、低コストで運用できるインデックスファンドの組み合わせが強力であることはいうまでもない。

「ESGスコアの高い企業がほかの企業を運用結果で上回っていることは、さまざまなデータでも検証されており、長期投資の妙味もあります。信託報酬率が比較的低い水準であることからも、個人のお客様のESG投資を、幅広く後押しできると考えています」と金子氏は胸を張る。

このインデックスファンドは、「自分たちが購入したいと思うようなファンドをつくろう」という呼びかけに応じた、ミレニアル世代の社員たちによって企画されたものだという。次世代を担う人材がつくったファンドという点でも、明るい未来を予見させるといえよう。

低コストで持続可能な成長への投資を可能にするインデックスファンドを個人投資家に

インデックスファンドの詳細はこちら▶

投資が企業を動かし、持続可能性の確保につながる

同社が、個人向けのみならず、機関投資家向けに「自然資本ファンド」の設定を進めているのも見逃せない。金子氏は次のように明かす。

「炭素クレジット創出だけでなく、生物の多様性を守ることを重視したファンドであることも特徴です。農業や林業、水産養殖業、湿地保全といった自然関連のプロジェクトに、エクイティー投資をしていきます」

同社はすでに、気候変動問題の専門アドバイザー企業であるポリネーションと、自然資本に投資する世界最大級の合弁会社を設立。期間15年で、IRR（内部収益率）7～9%を目指すグローバルファンドとし、21年度に1次募集で10億米ドルを目指すという。

「投資を通じ、資本の力でESGを導くことが、地球環境の持続的可能性を確保することにつながります。HSBCグループには、グローバルな金融企業としてそのような変化を起こす責任があると考えていますので、今後もESGファンドのラインナップ拡充に取り組んでいきます」（金子氏）

HSBC
〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-11-1 HSBCビルディング

制作／東洋経済企画広告制作チーム